

第2次大津市地域公共交通計画《骨子案》

令和7年9月25日
地域交通政策課

大津市の地域特性		大津市の交通特性		
・ 近年、総人口は横ばい傾向だが少子高齢化は進展。 ・ 老年人口は増加し、2060年には高齢化率は約39%になる見込み。 ・ 通勤流動は全体で流入より流出が多く、流出先は京都市、草津市が多い。 ・ 通学流動は全体で流入より流出が多く、流出先は京都市、草津市、大阪市が多い。 ・ 若年層の移動は減少、高齢者層の移動は増加。 ・ 目的別発生集中量は、出勤目的がやや増加し、それ以外は減少。		・ 自動車保有台数は、軽自動車は増加傾向、乗用車は2011年以降横ばい傾向。 ・ 免許人口割合は、若年層が減少する一方で、高齢者層は増加傾向。 ・ 鉄道の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年に減少し、以降は回復基調。 ・ 路線バスの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による2020年の激減後、回復しつつあったが、2024年減少に転じる。 ・ 一般タクシーの利用者数は、約262万人(2015年度実績)から約143万人(2024年度実績)に減少。 ・ デマンド型乗合タクシーの利用者数は、約1.3万人(2021年度実績)から約1.6万人(2024年度実績)に増加。		
大津市の地域公共交通に関する意見				
市民等の意見		鉄道事業者の意見	バス事業者の意見	タクシー事業者の意見
<u>＜運行内容＞</u> ・ 路線バスの運行本数が少なく利用しづらい。 ・ 鉄道の終電時間が早いので、遅くしてほしい。 ・ 鉄道駅までの二次交通がない。 ・ 時間帯によって、鉄道や路線バスが混雑しすぎる。 <u>＜車両・待合施設＞</u> ・ 鉄道駅のホームへのバリアフリー化が進んでいない。 ・ エレベーターやエスカレータがない。 ・ ノンステップバスを増やしてほしい。		<u>＜運賃・決済手段＞</u> ・ 路線バスの運賃が高い。 ・ 全てのバスで交通系ＩＣカードが使えるようにしてほしい。 <u>＜子ども・高齢者＞</u> ・ 高校生の子どもを最寄りの鉄道駅まで送迎する必要がある。 ・ 路線バスのダイヤが少なく、中学生の登下校が不便。 ・ 運転免許証返納後の移動が不安。 ・ 身体が不自由で自家用車に頼らざるを得ない。	<u>＜事業運営上の課題＞</u> ・ 運転手や整備士の減少。 ・ 物価の高騰や人件費の増加。 <u>＜期待する行政の支援＞</u> ・ 滋賀県が検討を進める新たな税のあり方に関心がある。 ・ 運転手や整備士等の人材を求めていることの周知。 ・ 鉄道利用と連動したまちづくりの推進。 ・ 各種キャンペーンを通じた連携。 <u>＜今後の展望＞</u> ・ 利用者的大幅な回復は見込みにくい。 ・ 乗務員不足への対応で手一杯。	<u>＜事業運営上の課題＞</u> ・ 運転手の確保が困難。 ・ ＬＰガススタンドが減少し、ＬＰＧ車の燃料補給が困難。 ・ 燃料費等の高騰分、人件費の増加分を運賃に十分に反映できていない。 <u>＜期待する行政の支援＞</u> ・ 助成金、補助金の拡充 ・ 各種割引制度に対する直接の補填 <u>＜今後の展望＞</u> ・ 運転手不足で事業存続の危機。

本市の地域公共交通を取り巻く厳しい情勢や、
現行計画の取組の方向性を踏まえる。

